

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立一之江第二小学校

校長名 木村 紀朗

名称:いきいきたいむ

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考え、進んで学習する子ども ・思いやりがあり、助け合う子ども ・体力のある元気な子ども
----------------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 1 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成し、学び方やものの考え方を身につけ、課題解決に生かすことができる力を高める。
- 2 実社会や実生活の中から、自ら課題を見付け、学び方やものの考え方を身につけ、課題解決に生かすことができる力を高める。
- 3 人・社会・自然とのかかわりにおいて、自らの生活や行動について考え、現在及び将来の自己の生き方につなげて考えようとする意識を高め、友達などと協同して課題解決に取り組もうとする態度を育てる。

育てようとする資質や能力及び態度

知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
・多種多様な情報の中から必要なことを選択し、自分なりの判断を持つ。	・課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考え、効果的にまとめている。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
・まとめ方や発表方法が分かり、進んで表現する。 ・自分から進んで課題を発見し、設定する。	・課題に対し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
・異なる意見や他者の考えを受け入れる。 ・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。	・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 ・他者と協同して課題を解決する。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色ある産業に従事する人々 ・地域の施設や設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化や伝統のもつ特徴やよさを考える ・地域の文化や伝統の継承に力を注ぐ人々の思い
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・町に住んでいるいろいろな立場の人々 ・地域の施設や設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・町に住むいろいろな立場の人々の思い ・人にやさしい町づくりについて考える
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ウインタースクールに向けて ・日本とつながりの深い国々 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪国の様子に対する理解を深める。 ・日本とつながりの深い国々の文化や歴史
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や環境とそこに起きている環境問題 ・地域の福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題と自分たちの生活とのかかわり ・地域の人々のよりよい暮らしを考える

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年生は地域、5年生は国際理解、6年生は環境と福祉を主なテーマとする。 ・単元は、本校の特色と伝統を継承しながら学年で開発する。 ・掲示やホームページなどで適宜発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識を連続発展させる支援 ・個に応じた指導の工夫 ・体験活動の重視 ・協同的な学習活動の充実 ・教科との関連的な指導の重視 ・教育機器の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材への協力依頼と活用 ・学級の枠を超えたチーム・ティーチングで、児童の個性に対応 ・ipad活用研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの活用 ・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定 ・自己評価・他己評価の活用 ・発表活動に対する参加者からの評価の重視